

# 与謝野晶子訳『源氏物語』書誌集成（上）

佐藤由佳

本稿は、与謝野晶子による『源氏物語』現代語訳の書誌について調査し、まとめたものである。書誌の掲出方法は、次のとおり。

一、書籍の出版形態により《単行本》、《叢書》、《文庫》に三分類し、本稿ではそのうち《単行本》について掲げる。《叢書》、《文庫》については、別稿（本稿末尾に記載）として掲げることとする。

二、右のそれぞれの配列については、刊行年月日の順とした。

与謝野晶子は、その生涯において、『源氏物語』を二度にわたって現代語訳しているが、一度目のものを「新訳」、二度目のものを「新新訳」と称している。本稿においては、書名の下に「新訳」「新新訳」の別をへゝにより付した。

また、それぞれの訳の違いを知る手だての一つとして、〈桐壺巻〉冒頭部を、「新訳」「新新訳」それぞれの初出本文を掲出した。

与謝野晶子は、明治十一年二月七日、大阪府堺市にて誕生し、昭和十七年五月二十九日没している。

すでに、明治四二年九月頃から小林天眠の依頼により「源氏物語講義」の執筆中であったが、明治四三年頃、金尾文淵

堂の金尾種次郎からの依頼により、『源氏物語』の現代語訳に取り組み、『新訳源氏物語』を刊行した。その後、関東大震災により、『源氏物語講義』の原稿の大半が焼失。しかし、再度現代語訳に取り組み、『新新訳源氏物語』に至っている。古典作品の現代語訳には、『新訳栄華物語』、『新訳紫式部日記・新訳和泉式部日記』、『新訳徒然草』がある。

《 単 行 本 》

『新譯源氏物語』 全三卷四冊。金尾文淵堂。(新訳)

- 「上卷」 (桐壺〜乙女) 明治四五年 二月二日 四六一頁
- 「中卷」 (玉鬘〜夕霧) 明治四五年 六月二五日 九二二頁
- 「下卷の一」 (御法〜寄生) 大正 二年 八月二日 一三五八頁
- 「下卷の二」 (東屋〜夢の浮橋) 大正 二年 二月一日 三日 一八一九頁



サイズ：二二・〇×一五・〇cm / 一頁行数：二三行（本文）、一一行（序文） / 一行字数：三〇字（本文）、二三行（序文）

与謝野晶子の現代語訳として最初に刊行されたもので、〈新訳〉と称する。総ルビを付す。

序文は、森林太郎（森鷗外）および上田敏が記す。なお、この序文の掲載順については、『鉄幹 晶子 全集』〔30〕所載の市川千尋氏による「解題〈付記〉」において、「二月二十一日発行の第一版では序文が森鷗外、上田敏の順であったが、六月二十日刊（第七版・佐藤注）では上田敏、森鷗外の順になっている。」とある。愛知淑徳大学蔵「初版」、神奈川近代文学館蔵「第五版」、蓬左文庫蔵「第七版」、国立国会図書館デジタルコレクション「第七版」および「第十版」、名古屋市鶴舞中央図書館蔵「第十版」を閲覧したが、愛知淑徳大学蔵「初版」および神奈川近代文学館蔵「第五版」の序文は、森鷗外、上田敏の順であり、それ以降の版は、市川氏の指摘どおりであった。第六版がどうかであったかについては確認ができていない。

本書の発行元は、金尾文淵堂であるが、奥付に「發賣元」として、「勉強堂書店」の名が併記されている版がみられる。「上巻」については、愛知淑徳大学蔵「初版」、神奈川近代文学館蔵「第五版」、蓬左文庫蔵「第七版」および国立国会図書館デジタルコレクション「第七版」が、これに相当する。「中巻」についても、愛知淑徳大学蔵および蓬左文庫蔵「初版」、国立国会図書館デジタルコレクション「再版」が同様である。

装丁・絵・書は、中澤弘光。定価は、各巻三円。

「下巻の二」巻末に「新譯源氏物語の後に」と題する晶子自身のあとがきを収める。これについては、本文終了後、頁を新たにし、七頁を要している。

本文頁数は全巻通しとなっている（前掲頁数はこれによる）。

なお、「下巻の二」の九八八頁の次を八八九頁とするが、その後は九九〇頁と本来の頁数表記に戻っている。

〔桐壺〕卷冒頭部

何時の時代であつたか、帝の後宮に多くの妃嬪達があつた。この中に一人陛下の勝れた寵を受けて居る人がある。この人は極めて權門の出身と云ふのでもなく、また今の地位が後宮においてさまで高いものでもなかつた。多くの女性の嫉妬がこの人の身邊に集るのは云ふまでもない。この人よりも位置の高い人はもとより、それ以下の人の嫉妬は甚しいものであつたから、この人は苦しい、悲しい日を宮中で送つて居た。その上よくよと物思ひばかりをする結果病身にさへなつた。陛下は二十になるやならずの青年である。戀のためには百官の批難も意に介せられない、いよいよ寵愛はこの人一人に集るさまである。この人も百方嫉視の中に陛下の愛一つをたよりにして生きて居る。

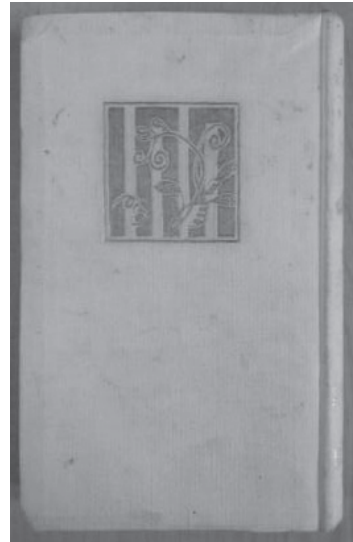
『新譯源氏物語』全四卷。金尾文淵堂。(新訳)

〔第一卷〕(桐壺)乙女 大正三年二月一日 四九四頁

〔第二卷〕(玉鬘)夕霧 大正三年二月二日 九八九頁

〔第三卷〕(御法)寄生 大正三年二月二〇日 一四六二頁

〔第四卷〕(東屋)夢の浮橋 大正三年二月三十一日 一九六一頁



サイズ…一七・三×一・〇cm / 一頁行数…一二行(本文)、一〇行(序文) / 一行字数…三〇字(本文)、二三行(序文)

前著の縮刷発行版。挿絵なし。装丁は、有島生馬。頁数は、全巻通し。定価は、各巻一円。

「三六判変型のクローズ装、天金の縮刷四冊版」(神野藤昭夫『与謝野晶子の新訳源氏物語―薫・浮舟編』の「解説」)。以下、同氏の所説は同書による。)である。

奥付に「縮刷発行」とあるが、「桐壺」冒頭には、明治四五年二月二日の版(オリジナル)との本文異同が見られる。それについては、神野藤昭夫氏も触れており、すでに片桐洋一氏の指摘(『源氏物語以前』(平成一三年一〇月三〇日笠間書院))のあることが紹介されている。

本文異同の一例として、「桐壺」の二箇所を掲出する。なお、異同部分に傍線を付した。また、見やすさのためルビは省いた。

・『新譯源氏物語』「上卷」(明治四五年二月二日)

∴この中に一人陛下の勝れた寵を受けて居る人がある。∴陛下は二十になるやならずの青年である。∴

・『新譯源氏物語』「第一卷」(大正三年二月一日)

∴その中に一人陛下の勝れた寵を受けて居る人がある。∴陛下は三十になるやならずの青年である。∴

なお、「第一卷」の発行年月日については、現在三種類が確認できる。印刷年月日とともにそれらを列挙する。

①佐藤架蔵

大正三年一月二十六日 印 刷

大正三年二月一日 縮刷發行

②国立国会図書館デジタルコレクション

大正三年一月二十六日 印 刷

大正三年二月六日 縮刷發行

③国文学研究資料館〈近代書誌・近代画像データベース〉

(弘前市立弘前図書館蔵)

大正三年一月 七日 印 刷

大正三年二月二日 縮刷發行

印刷年月日および発行年月日以外の大きな相違点としては、①、③が内表紙書名の右横に朱で「賜天覧 賜台覧」と掲出するのに対し、②は、表紙見返し裏に「賜台覧 賜天覧」の文字を付し、一頁のち内表紙となる。

『新譯源氏物語』全二卷。大鏡閣。(新訳)

「上」 (桐壺夕霧) 大正一五年 二月一〇日 九二二頁

「下」 (御法夢の浮橋) 大正一五年 二月二〇日 一八一九頁



サイズ：二三・五×一五・五cm / 一頁行数：二三行(本文)、二一行(序文) / 一行字数：三〇字(本文)、二三字(序文)

神野藤昭夫氏のいう「大鏡閣が初版を異装二冊本として出版」したものである。ただし、本文内容、頁数などについては基本的に同じだが、次の点が初版とは異なる。

- ・初版において「権」の前頁におかれていた挿絵が「乙女」の前頁におかれ、逆に「権」の前頁におかれていた挿絵が「乙女」の前頁におかれている。
- ・初版において「浮舟」の前頁におかれていた挿絵がない。



・五〇五頁一行目一番上の「寂」の文字が反転している。  
函入り。装丁および挿絵は、中澤弘光。定価は、各巻四円二五銭。頁数は、両巻通し。

『新譯源氏物語』全二巻。金尾文淵堂。(新訳)

「上」(桐壺く夕霧) 大正一五年 四月二十九日 九八九頁

「下」(御法く夢の浮橋) 大正一五年 七月二十七日 一九六一頁

サイズ…一七・五×一〇・五cm / 一頁行数…一〇行 / 一行字数…三〇字

大正三年に金尾文淵堂から刊行された、『新譯源氏物語』全四巻の合本発行である。

表紙および箱張は、奥村土牛による藤原隆能の絵の模写。挿画は、梶田半古。函・表紙・挿絵は、木版によるカラー刷り。定価は、各巻三円八〇銭。頁数は、両巻通し。

『新譯源氏物語』全二巻。河野成光館販売。(新訳)

「上」(桐壺く夕霧) 昭和 四年 三月 五日 九二二頁

「下」(御法く夢の浮橋) 昭和 四年 三月 五日 一八一九頁

サイズ…二二・〇×一五・五cm / 一頁行数…二三行(本文)、二一行(序文) / 一行字数…三〇字(本文)、二三字(序文)

大正一五年二月に大鑑閣から刊行された『新譯源氏物語』の再版。内容等は同じだが、大正一五年二月版には「下」の巻末に「(をはり)」と記されているが、この版にはそれがない。

宇和島市立図書館蔵本で確認したところ、奥付の本来の「發行所」欄には、「發賣所 河野成光館」と印字した、同質の別紙が貼付されている。

定価は、各巻四円二五銭。頁数は、全巻通し。

本書の奥付については、神野藤昭夫氏がすでに次のように述べている。

・・・昭和四年三月五日に河野成光館を発売所として、再版が発行されている。それは「発売元 大鑑閣」とある上に、「発売所 河野成光館」という附箋ふせんが糊のりづけされたものである。・・・

しかしながら、岐阜県立図書館蔵本『新譯源氏物語下』には、神野藤昭夫氏いうところの「附箋ふせん」は確認できなかつた(のちにはがされた形跡もない)。再版発行年月日を同一にして「發行所」を「大鑑閣」とする。

『新譯源氏物語』全二巻。新興社。(新訳)

「上」(桐壺夕霧) 昭和 七年 一月 八日 九二二頁

「下」(御法々夢の浮橋) 昭和 七年 一月 八日 一八一九頁

サイズ…一九・〇×一三・〇cm / 一頁行数…一三行 / 一行字数…三〇字

本体背と函背の字体が異なる。本体背の字体は、大正一五年二月に大鑑閣から刊行された全二巻のものと同じ。本文内容、頁数などについても、大正一五年二月に大鑑閣から刊行された全二巻のものと基本的に同じだが、次の点が異なる。

- ・「上田敏」および「森林太郎」の序について、それぞれの記載年月がない。
  - ・「葵」の前頁の挿絵と「榊」の前頁の挿絵が入れ替わっている。
  - ・大鑑閣刊行本において一四三九頁の前頁にある挿絵が一四四三頁の前頁におかれている。
  - ・大鑑閣刊行本において一五一頁の前頁にある挿絵が「浮舟」の前頁におかれている。
  - ・大鑑閣刊行本において一七三三頁の前頁にある挿絵が「手習」の前頁におかれている。
- 函入り。天金。挿絵は、中澤弘光。定価は、各巻二円五〇銭。頁数は、両巻通し。

『新譯源氏物語』全一卷。新興社。〈新訳〉

昭和 七年 七月 八日 一八一九頁

サイズ…一九・〇×一三・〇cm / 一頁行数…一三行 / 一行字数…三〇字

前掲書、昭和七年一月に新興社から刊行された『新譯源氏物語』全二巻を、一卷にまとめたものと考えられる。全一卷本であるにもかかわらず、目次が「新譯源氏物語上巻 目次」「新譯源氏物語下巻 目次」となっていること、および大正一五年刊の大鑑閣刊行本を基準として、前掲書との相違点が同じであること。ただし、前掲書にあった「(をはり)」の文字はない。

なお、奥付書名は、『新譯源氏物語』であるが、函および本体背の書名は、『新譯源氏物語 全』。  
絵および書は、中澤弘光。クロス装、函入り。天金。定価は、「定價金四圓五拾錢」「特價金參圓六拾錢」とある。

『新譯源氏物語』全一卷。新興社。〈新訳〉

昭和 八年 五月 八日 一八一九頁

サイズ：一九・〇×一三・〇cm / 一頁行数：一三行 / 一行字数：三〇字

昭和七年七月に新興社から刊行された前掲『新譯源氏物語』と、本文および定価設定は、同じ。

『新譯源氏物語』全一卷。新興社。〈新訳〉

昭和 八年 八月 八日 一八一九頁

サイズ：一九・〇×一三・〇cm / 一頁行数：一三行 / 一行字数：三〇字

昭和七年七月に新興社から刊行された『新譯源氏物語』と、本文内容および定価設定は、同じ。しかし、次の点が異なる。

- ・「上田敏」および「森林太郎」の序について、「上田敏」の記載年月はあるが、「森林太郎」のそれについてはない。
- ・昭和七年七月刊行本において一六八三頁の前頁にある挿絵が、一七〇七頁の前頁にある。

『新譯源氏物語』全一卷。新興社。(新訳)

昭和 九年 五月 八日 一八一九頁



サイズ：一九・〇×一三・〇cm / 一頁行数：二三行 / 一行字数：三〇字

昭和七年七月に新興社から刊行された『新譯源氏物語』と、本文内容、定価設定ともに同じ。しかし次の点が異なる。

- ・「上田敏」および「森林太郎」の序について、両者とも記載年月日がある。
- ・昭和七年七月刊行本において「手習」の前頁にある挿絵が一六七九頁の前頁におかれている。
- ・昭和七年七月刊行本において「夢の浮橋」の前頁にある挿絵がない。

なお、奥付書名は『新譯源氏物語』であるが、本体背および函背の書名は『新譯源氏物語 全』とする。

『新譯源氏物語』全一巻。新興社。(新訳)

昭和一〇年 一月 八日 一八一九頁

サイズ：一九・〇×一三・〇cm / 一頁行数：一三行 / 一行字数：三〇字

昭和七年七月に新興社から刊行された『新譯源氏物語』と、本文および定価設定は同じ。ただし、次の点が異なる。

・ 本体背の書名は、『新譯源氏物語』。

・ 目次には、「新譯源氏物語上巻 目次」「新譯源氏物語下巻 目次」の文字はなく、「新譯源氏物語 目次」と改められている。

『新譯源氏物語』全四巻。新興社発行・富文館発売。(新訳)

〔第一巻〕(桐壺〜薄雲) 昭和一〇年 九月 八日 四〇一頁

〔第二巻〕(権〜夕霧) 昭和一〇年 九月 八日 九二二頁

〔第三巻〕(御法〜寄生) 昭和一〇年 九月 八日 一三五八頁

〔第四巻〕(東屋〜夢の浮橋) 昭和一〇年 九月 八日 一八一九頁

サイズ：一九・〇×一三・〇cm / 一頁行数：一三行(本文)、一一行(序文) / 一行字数：三〇字(本文)、二三行(序文)

奥付には、発行所「新興社」、販売所「富文館」とある。函に貼付の題箋には「與謝野晶子譯 新譯源氏物語 第一

巻 東京富文館蔵版」とある。装丁および挿絵は、中澤弘光。天金。表裏見返しの図柄は、新興社刊『新譯源氏物語』全一卷ものと同じだが、色使いが異なり、全一卷ものが薄橙色系であるのに対し、若草色である。挿絵の版が、全一卷ものと比較すると摩耗の跡がうかがえる。

定価については、版によって異なると思われる。各巻、一円五〇銭のものと、一円七〇銭のものが確認できる。

また、本書に関連して、神野藤昭夫氏は次のとおり復刻版の存在を示唆している。

…インターネット情報で、実物は未見だが、THE PRESS WOMAN LIFE Co. (旧婦人と暮らしの会出版社) というところから、平成七年二月から七月にかけて『復刻版 新訳源氏物語 昭和拾年版』全四巻が出ているらしい。

この『復刻版 新訳源氏物語 昭和拾年版』全四巻について、現在、確認できていない。

『新譯源氏物語』全一卷。新興社発行・富文館発売。(新訳)

昭和一〇年 九月 八日 一八一九頁

サイズ…一九・〇×一三・〇cm / 一頁行数…一三行 / 一行字数…三〇字

奥付には、発行所「新興社」、販売所「富文館」とある。前掲の発行所「新興社」、販売所「富文館」の全四巻のものと同日に刊行された、全一卷ものである。

昭和七年七月、昭和八年五月、昭和九年五月および昭和一〇年一月に新興社から刊行された『新譯源氏物語』全一卷と本文内容、定価設定ともに同じ。

ただし、次の点が異なる。

- ・内表紙の字体とレイアウト。(字体については、発行所「新興社」、販売所「富文館」の全四巻のものと同一。)
- ・表裏見返し of 図柄の色。(発行所「新興社」、販売所「富文館」の全四巻のものと同一。)
- ・「序」の筆者による記載年月の有無。前掲の新興社刊行の全二巻ものには、上田敏ならびに森林太郎による「序」について、それぞれ記載年月が「明治四十五年一月」と記載されているが、本書にはその記載がない。

『新譯源氏物語』全一卷。新興社発行・春洋社販売。(新訳)

昭和十一年二月 五日 一八一九頁

サイズ…一九・〇×一三・〇cm / 一頁行数…一三行 / 一行字数…三〇字

奥付には、発行所「新興社」、販売所「春洋社」とあり、「昭和十一年十二月一日譲受印刷」と記す。  
函入り。天金。定価は、二円八〇銭。

なお、刊行年月日を同一とし、本体および函の装丁が異なる版も確認できる。

『新新譯源氏物語』全六巻。金尾文淵堂。(新新訳)

- 「第一巻」(桐壺〜葵) 昭和十三年一〇月二二日 五一九頁
- 「第二巻」(柵〜朝顔) 昭和十三年一月二二日 四八一頁
- 「第三巻」(乙女〜藤のうら葉) 昭和十三年二月二二日 五二七頁



「第四卷」(若菜上)夕霧) 昭和一四年 二月一日 五〇九頁

「第五卷」(夕霧(二))總角) 昭和一四年 六月三〇日 五三一頁

「第六卷」(早蕨)夢の浮橋) 昭和一四年 九月二日 六八一頁

サイズ…一八・〇×一二・五cm / 一頁行数…一二行 / 一行字数…三三三文字

与謝野晶子の現代語訳として(新訳)に次いで刊行されたもので(新新訳)と称する。総ルビを付す。

装丁および口絵は、正宗得三郎。これについて与謝野晶子は、「第六卷」巻末の「あとがき」を「私の最も親しい畫家の正宗得三郎氏が装幀と口繪を描いて下さつたのは大きい幸せであつた。」と結んでいる。各巻頭におかれている正宗得三郎の絵は、すべて扇形の枠の中に描かれる。また、五十四帖それぞれの巻頭には、晶子自筆・自作による和歌が付される。「第六卷」の本文は、六八一頁で一旦終了しているが、そのあとに新たに頁を起し、一〇頁分の「あとがき」を付す。

発売当初は全八巻を予定していたと思われる。「第一卷」から「第四卷」の巻末予告には、「新新譯源氏物語 全八巻」とし、全八巻である旨が明記されている。しかし、「第五卷」巻末予告は、全六巻であることを記す。

定価については、各巻奥付に「定價 金貳圓貳拾錢」と印字する。ただし、「特價 金貳圓」の紙が附箋で貼られているものも確認できる。なお、巻末の『新新譯源氏物語』の広告には、「每冊 正價 金貳圓貳拾錢・特價 金貳圓」とある。函入り。

どの……様の御代であつたか、女御とか更衣とか云はれる後宮が大勢居た中に、最上の貴族出身ではないが深い御愛寵を得て居る人があつた。最初から自分こそはと云ふ自信と、親兄弟の勢力に恃む所があつて宮中に入つた女御達からは失敬な女として嫉まれた。その人と同等、若しくはそれより地位の低い更衣達はまして嫉妬の焰を燃やさないわけも無かつた。夜の御殿の宿直所から退る朝、續いてその人ばかりが召される夜、目に見耳に聞いて口惜しがらせた恨みのせいもあつたか身體が弱くなつて、心細くなつた更衣は多く實家へ下つて居がちと云ふことになる、いよいよ帝はこの人ばかり心をお引かれになると云ふ御様子で、人が何と批評をしゃうともそれに御遠慮などと云ふものがお出来にならない。御聖徳を傳へる歴史の上にも暗い影の一所残るやうなことにもなりかねない状態になつた。高官達も殿上役人達も困つて、御覺醒になるのを期しながら、當分は見ぬ顔をしてゐたいと云ふ態度をとる程の御寵愛ぶりであつた。唐の國でもこの種類の寵姫、楊家の女の出現によつて亂が醸されたなどと蔭では云はれる。今やこの女性が一天下の煩ひだとされるに至つた。馬嵬の驛がいつ再現されるかも知れぬ。その人にとつては堪へ難いやうな苦しい雰圍氣の中、唯だ深い御愛情だけを頼りにして暮してゐた。

『源氏物語』全二卷。三笠書房。〈新新訳〉

「上卷」〔桐壺〕若菜（上）

昭和二五年 九月 五日 五九七頁

「下卷」〔若菜上（つづき）〕夢の浮橋

昭和二五年一〇月二日 六三一頁



サイズ…一九・五×一三・五cm / 一頁行数…二二行 / 一行字数…五四字

前著の合本版である。奥付書名は、「源氏物語」だが、函には、『全譯 源氏物語』とある。

「上巻」本文の後、「與謝野晶子女史肖像」（昭和二年撮影）モノクロ写真、「解説」（池田亀鑑「源氏物語と晶子源氏」）と続く。「下巻」本文の後には、「あとがき」、「源氏物語年立」、「源氏物語系圖」を付す。

函入り。定価は、各巻四二〇円。

なお、版によって、初版印刷日および初版発行日が異なるものが見受けられる。本稿書誌は、蓬左文庫蔵本を掲げた。その異同については、次のとおり。

蓬左文庫蔵本

「上巻」 昭和二五年 九月 五日 初刷刊行

昭和二六年 三月三〇日 五版刊行

〔下巻〕 昭和二五年一〇月二日 初刷刊行 昭和二六年 三月三〇日 五版刊行  
架蔵本

〔上巻〕 昭和二五年一〇月二日 初刷刊行 昭和二六年 七月一〇日 四版刊行

〔下巻〕 昭和二五年一〇月一〇日 初刷刊行 昭和二六年 七月一五日 七版刊行

『定本 現代語訳 源氏物語』全二巻。日本書房。〈新新訳〉

〔上巻〕 (桐壺〜藤のうら葉) 昭和三六年 九月三〇日 五四七頁

〔下巻〕 (若菜上〜夢の浮橋) 昭和三六年一〇月三〇日 五七五頁

サイズ：二六・〇×一九・五cm / 一頁行数：二四行 / 一行字数：三一字 (二段組みの一段)

〔上巻〕の巻頭には、池田弥三郎による解説「源氏物語について」をおく。それぞれの帖の冒頭一頁には、帖名のほか、晶子の自作の和歌と登場人物関連系図を記す。各巻末に「訳注」が付される。

装丁および挿絵は、三谷一馬。挿絵の色が、「上巻」(茶系色)と「下巻」(緑系色)で異なる。

定価は、各巻二、三〇〇円。

『定本 現代語訳 源氏物語』全二巻。日本書房。〈新新訳〉

〔上巻〕 (桐壺〜藤のうら葉) 昭和三七年 九月二〇日 五四七頁

〔下巻〕 (若菜上〜夢の浮橋) 昭和三七年一〇月二日 五七五頁

サイズ：二六・〇×一九・五cm / 一頁行数：二四行 / 一行字数：三二字（二段組みの一段）

昭和三十六年九月から一〇月にかけて日本書房から刊行された『定本 現代語訳 源氏物語』全二巻と内容、定価設定ともに同じ。奥付に、改版の表記は見られない。

『定本 現代語訳 源氏物語』全二巻。日本書房。〔新新訳〕

〔上巻〕（桐壺〜藤のうら葉） 昭和三九年 三月二〇日 五四七頁

〔下巻〕（若菜上〜夢の浮橋） 昭和三九年 四月二〇日 五七五頁



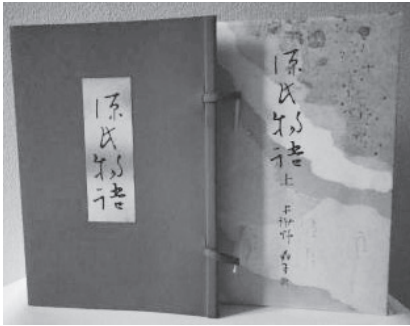
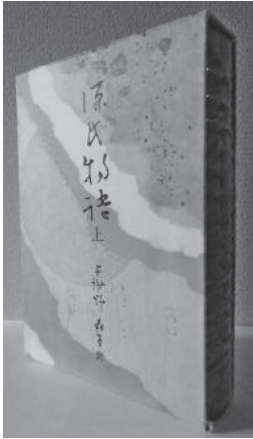
サイズ：二六・〇×一九・五cm / 一頁行数：二四行 / 一行字数：三二字（二段組みの一段）

昭和三六年九月から一〇月にかけて日本書房から刊行された『定本 現代語訳 源氏物語』全二巻、昭和三七年九月から一〇月にかけて日本書房から刊行された『定本 現代語訳 源氏物語』全三巻と内容は同じ。奥付に、改版の表記は見られない。

ただし、定価は各巻三、二〇〇円。

『源氏物語』全三巻。河出書房新社。(新新訳)

- |               |            |      |
|---------------|------------|------|
| 〔上〕 (桐壺〜乙女)   | 昭和四四年五月二五日 | 五五三頁 |
| 〔中〕 (玉鬘〜雲隠れ)  | 昭和四四年六月二五日 | 五五五頁 |
| 〔下〕 (匂宮〜夢の浮橋) | 昭和四四年七月一〇日 | 五四一頁 |



サイズ…二二・五×一五・五cm / 一頁行数…一九行 / 一行字数…五二字

カラー挿絵による豪華愛蔵版である。各巻末に池田弥三郎による「注釈」をおく。

五十四帖それぞれに添えられているカラー挿絵の裏面には、その帖の簡潔なあらすじを付す。

月報つき。各巻の月報には、中村真一郎による『源氏物語』解説、鈴木敬三による『源氏物語』の風俗」と題する論文を掲載。あわせて、各巻における「系図」をおく。また、各月報に、実費三〇〇円で帙の頒布があることを掲載している。

装丁および色刷挿絵は、新井勝利。題字は、与謝野晶子。クロス装。函入り。帙あり。帙は、本体と同じ布を使用。定価は、各巻一、六〇〇円。

『源氏物語』全二巻。河出書房新社。(新新訳)

昭和六三年 一月三〇日 七八八頁



サイズ…二二・〇×一五・〇cm / 一頁行数…二九行 / 一行字数…三一字 (二段組みの一段)

帯には、「全五十四帖を一巻に収めた待望の廉価普及版」とある。内表紙および背の書名は、『源氏物語 全五十四帖』。巻末に与謝野晶子「あとがき」、続いて池田弥三郎「注釈」、「解説」をおく。装丁は、荒川じんぺい。本文カットは、新井勝利。

カバーについては、「カバー原画 カラー長篇アニメーション『源氏物語』より 製作〓朝日新聞 / テレビ朝日 / 日本ヘラルド映画グループ 製作プロダクション〓グループ・タック / ヘラルド・エース 監督〓杉井キサブロー 脚本〓筒井ともみ キャラクターデザイン〓林静一 音楽〓細野晴臣 (サントラ盤・EPIC・ソニー)」とある。

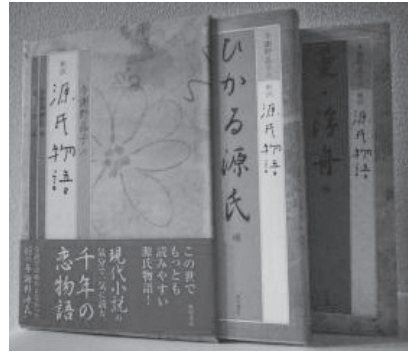
定価は、二、四〇〇円。昭和六三年六月末日までは、特別定価二、〇〇〇円。

『与謝野晶子の新訳源氏物語』全二巻。角川書店。〈新訳〉

「ひかる源氏編」 平成二三年一月三〇日 五七三頁

「薫・浮舟編」 平成二三年一月三〇日 五四一頁





サイズ…一九・〇×一三・〇cm / 一頁行数…一七行 / 一行字数…四四字

「本書は、昭和四年河野成光館刊行の再版二冊本を底本にして、原文を新字・新かなづかいに改めたほか、漢字の一部をひらがなに改めた。なお、ひかる源氏編、薫・浮舟編の編名は、今回新たに設けたものである。（編集部）」とある。「薫・浮舟編」巻末には、与謝野晶子により大正二年に記された「新訳源氏物語の後に」、続いて神野藤昭夫による「『新訳源氏物語』と幻の『源氏物語講義』」と題する「解説」をおく。

装丁は、谷口広樹。二巻一函入り。定価は、三、三〇〇円（税別）。

本稿の参考文献については、別稿の「与謝野晶子訳『源氏物語』書誌集成（下）」（愛知淑徳大学大学院文化創造研究科紀要）第7号（二〇二〇年三月発行）にまとめて掲げる。

（博士後期課程）